

# CLARINET

## クラリネット

持丸秀一郎 もちまる・しゅういちろう



- ◆出身 武蔵野音楽大学、同大学院、ハンガリー国立リスト音楽院
- ◆所属 日本センチュリー交響楽団首席奏者 日本クラリネット協会理事
- ◆趣味 料理、ドライブ
- ◆血液型 B型
- ◆星座 てんびん座
- ◆読者にひとこと 常に謙虚な気持ちで音楽に接してください
- ◆手紙の送り先 BJ 気付

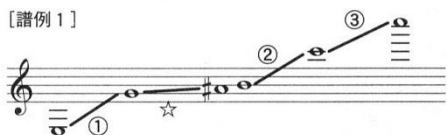
## 3つの音域<sup>プラス</sup>+1

ここまでロングトーンの話をしてきましたが、みなさん、まさか譜例の「ド」の音だけで練習していませんか?! いろいろな音でロングトーンの練習をすると、それぞれの音域で異なる傾向があることに気づいた人はいませんか?

### ■音域に名前がある!

クラリネットの音域にはそれぞれ名前がついていて、これは楽器の成り立ちとも関係があるのでぜひ覚えてください。

【譜例1】



【譜例1】の①は、**シャリュモ一音域**。シャリュモ一とはクラリネットの先祖といえる楽器の名前で、マウスピースやリードはクラリネットとほぼ同じ、この範囲しか音が出ない楽器でした。

②は、**クラリオン音域**。シャリュモ一音域からちょうど12度上の音域を指します。

③は、**アルティッシモ音域**。クラリネットの最高音域で、いろいろな運指で演奏できます。

☆は、**ブリッジ音域**。スロート（喉）やネック（首）と言われたりもします。シャリュモ一音域とクラリオン音域を繋げる（橋渡しする）音域。この音域のキが開発されたことによって2つの音域をつなげることができ、後のクラリネットの開発にもつながりました。

### ■音域によって変わる傾向と対策

さて、なぜこんな話をしたかという、音域によってアンブシュア、息の入れ方、音色や音程の傾向が異なるからなのです。ひとつのアンブシュア、ひとつの息の入れ方で全ての音域を演奏するのは不可能で、細かくいえば全ての音でアンブシュアも息の入れ方も全く異なるのです（初心者みなさんは、アンブシュアを各音域で変えることよりも安定させることの方が先決ですので、これは上級者

向けのお話です）。

では各音域の特徴、演奏する際の傾向と対策を考えてみましょう。

○**シャリュモ一音域**では、音量の幅がつけやすく豊かな深い音色が特徴的です。その反面、音程も音量に比例して大きく変化してしまいます。たくさん息を入れても、音程が下がらないようにアンブシュアで支えましょう。

○**クラリオン音域**では、音量の幅もつけやすく、滑らかで輝かしい響きが特徴的です。音程もシャリュモ一音域に比べると変化が少なく、音色の変化がつけやすい音域です。その反面、*p*へのディミヌエンドで「ブー」と下の倍音・低い音が鳴ってしまったり、上の倍音にひっくり返ってしまいやすい音域です（特に「ラ」の音）。このような場合、息の量が減っても息のスピード・圧力が落ちないように意識しましょう。

○**アルティッシモ音域**は、非常に鋭く刺激的な音を出すことができます。音程の変化や音色の変化もつけやすく、近・現代の作曲家は好んで使いますが、演奏者がコントロールしなると、音程も音色もないただの騒音になってしまう危険もあります。また、針穴に糸を通すように、よい音の鳴るポイントが非常に狭く、うまくそこに当たらないと音が全く鳴らなくなったりします。*p*で音を出すのも、ディミヌエンドも難しく、一番鬼門の音域といえます。音程や響きに問題があるときは、アンブシュアやリードはもちろんですが、いろいろな運指も試してみましょう。

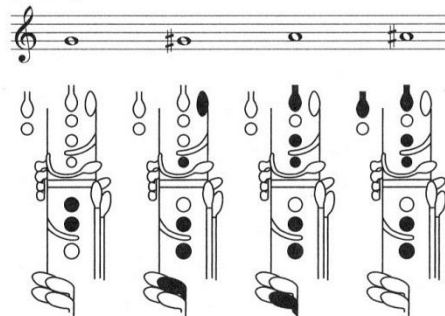
○**ブリッジ音域**は、うまくコントロールすると、とても柔らかい繊細な音色を作れ、浮かび上がるような軽さを表現できる音域です。しかし、楽器の構造上最も痩せた響きのない音が鳴ってしまいがちです。また、すぐ上の「シ」の音は指を全部押さえて楽器全体で音を作るので太い音がします。この音質の差をなるべくなくさないといけませんが、補

助的に指を押さえると響きがよくなるので、みなさん試してみてください。

### ■「ソ」、「ソ#」、「ラ」、「ラ#」の運指

みなさんお気づきのように、この4つのブリッジ音域の音は非常に不安定で響きも薄く、クラリネットの鬼門の一つです。多くの初心者用の教則本では、右手は全く使わないように書かれていますが、実際には音程・響き・音色のために右手も使います【譜例2】。

【譜例2】



これはほんの一例で、個々の楽器の状態によっても大きく異なります。自分にとって一番よい響き・音程で鳴る運指をいろいろ探してください。また、速いパッセージのときには、無理にこの運指を使わなくても構いませんが、ロングトーンや歌うようなメロディのときには、ぜひ使ってください。各音域が滑らかに繋がるのを目指して練習しましょう!

### ■3つの音域を聴き分けてみよう

さて、クラリネットの各音域の特徴を生かしたとても面白い作品があります。ストラヴィンスキーというロシア人作曲家の《クラリネット独奏のための3つの小品》です。1曲目はシャリュモ一音域とブリッジ音域のみ。2曲目は各音域を縦横無尽にかけめぐり、3曲目はほぼクラリオン音域とアルティッシモ音域のみ。クラリネット1本のための作品なので、CDなどで聴いたら演奏者の息遣いも聴こえてきますよ。3曲合わせて5分もない短い作品ですが、とってもおもしろい曲なのでぜひ聴いてみてね。ではまた来月!